

平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	広島県立広島南特別支援学校		
学校長氏名	重岡伸治	栄養教諭氏名	村上優子
職員数	69 名	児童・生徒数	76 名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

担任等と連携した食に関する指導の実践により、児童生徒の食に対する興味・関心は高まりつつあるが、発達段階に応じた系統性のある指導にまで至っていない。

朝食の摂取率は高いものの、朝食の内容については、十分であるとは言えない。朝食欠食者については固定化しつつある。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- ・望ましい生活習慣の形成

長期休業後、生活リズム調査期間を設け、家庭との連携を図り、生活習慣や食の大切さについて指導する。それぞれの発達段階に応じた内容で、自らの生活について振り返り、望ましい生活習慣や食習慣を形成しようとする幼児児童生徒を育成する。

成果指標：児童生徒又は担任による生活習慣チェックの肯定的評価。

目標値：平成 26 年度実績値 73.3%、平成 27 年度実績値 53.2%を受け、目標値を 75%とした。

なお、平成 27 年度より、朝食の内容についても調査し、評価を行っている。

3 食育の目標に対する具体的な取組

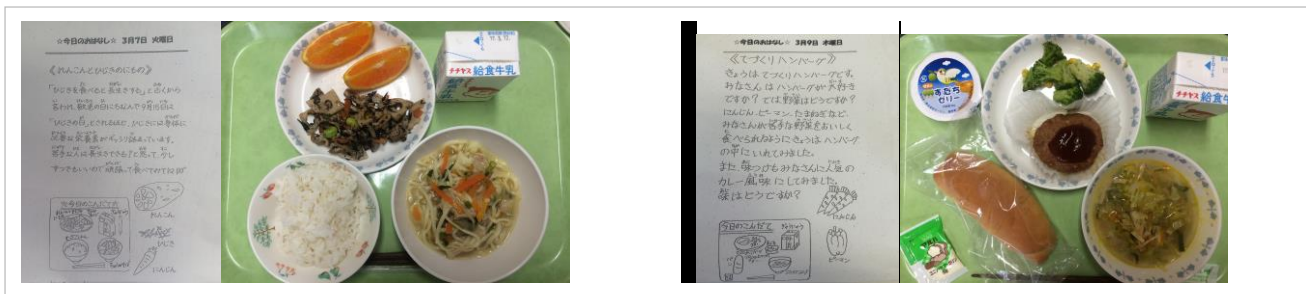
【取組 1】（テーマ） 養護教諭と連携した幼稚部への指導

今年度、新たな取組として養護教諭と連携し、月に 1 度、幼稚部への指導を実施した。

担任とは違う先生が来るということで、幼児が非常に興味をもち、集中して話を聞いている様子が見られた。学校行事に関連付けたり、その日の給食に使用する食材を持参したり、季節にちなんだ題材にするなど、幼稚部の教諭と連携して実施したことで、非常に効果的であった。今後も継続的に実施する。

【取組 2】（テーマ） 教科における食に関する指導

高等部 3 年フードデザインにおいて、教科担当と連携して、食に関する指導を行った。年に 2 回の交流給食後に行ったアンケートをもとに、児童生徒が苦手な食材を知り、これらをどのように調理したら、食べやすく、喜ばれるかなどを生徒が考え、考えた料理の調理実習も行った。実際の給食として提供する時には、毎回給食時に配付しているプリントに生徒が記入した内容も加えて掲載したことで、幼児児童生徒も、非常に興味深く読み、苦手な食材が入っていることを理解しつつも、おいしく食べている様子が多く見られた。



4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

(1) 取組の推進

- ・統一メニュー「タコタコライス」に合わせて、県内の特別支援学校の栄養教諭・学校栄養職員で考案した「トクトクポトフ」を実施した。「トクトク」は、特別支援学校の「特」でたくさんの栄養が取れる「得」などの意味も含めた。二次調理や食べやすさなども考慮して食材を選び、広島県産大豆を使用した豆腐を使用することを特徴とした。
- ・今年度のものにとどまらず、過去の「ひろしま給食」も実施した。また、寄宿舎の夕食においても実施するなど、校内での興味が高まるよう取り組んだ。

(2) 家庭との連携

- ・夏休み前には、教育委員会より配付されたリーフレットと合わせて、昼食をつかって食べようという趣旨で「つくレポ」の募集を行った。
- ・毎月の給食だよりを使って、実施する「ひろしま給食」の説明や調査協力のお礼、100万食達成などの報告を行った。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

- ・望ましい生活習慣の形成については、実績値は68.4%で目標値の75%には至らなかった。しかし、昨年度の実績値53.2%を大きく上昇することができた。理由としては、給食だよりや保健だよりに朝食や生活習慣についての情報を多く加えたこと、ただ配付するだけでなく、幼稚部には栄養教諭・養護教諭の直接指導、その他の学部においては、児童・生徒会と連携し、委員会活動等として児童生徒から注意喚起をし、児童生徒自身が主体的に意識しあえるように取組を行ったことなどが考えられる。

【課題】

- ・不規則な生活が習慣化している児童生徒の改善にまでは至っていない。
- ・朝食内容においては、起床時間や就寝時間の影響が非常に大きいため、食事のバランスとともに、生活リズムについての指導が不可欠である。

6 今後の取組に向けた改善方策について

(1) 食育の推進

校内において、組織的かつ計画的な指導になるよう、保健安全部を中心に取り組んでいきたい。

(2) 食に関する指導の充実

教科等の中で栄養教諭が子供達と関わる機会を増やし、計画的に実施するとともに、生活習慣や食習慣を自分で管理し、習慣化し始める小学部高学年と中学部に焦点を合わせた指導を取り入れる。